

## ハザードマップの「情報・学習編」の充実

ハザードマップのユニバーサルデザイン  
に関する検討会（第4回）  
令和4年11月29日

# 分かる情報・学習編コンテンツにするための記載内容の検討

- 水害ハザードマップの構成は、「地図面」と「情報・学習編」で構成されている。
- 水害時に適切な避難行動を判断し、行動をとるためには、あらゆる主体がハザードマップの「地図面」と「情報・学習編」の両面の理解が必要である。
- 「情報・学習編」コンテンツを整理・作成し、読み上げ仕様でWeb公開することで、自治体のハザードマップ作成の負担軽減や情報発信内容のバラツキを補完する。



「情報・学習編」は  
「地図面」を補足し避難行動に直結  
より分かりやすく伝える工夫が必要



水害を知る

リスクを知る

対応を知る

1 水害を意識する

- 国土の特徴
- 水害の可能性

2 現状を認識する

- これまでの対策
- 気候の変化
- 災害の頻発化
- これからの対策

3 自分の居場所の危険度を知る

- 水害のリスク
- 居場所のリスク

4 避難方法を考える

- 避難の方法
- 避難場所の選定

5 行動に移す

- 避難のきっかけ

6 個人に応じた避難・避難生活

- 個人のリスクに応じた避難
- 個人のリスクに応じた避難生活

- あらゆる人に、「災害発生前にしっかり勉強する場面」において命を守るための行動についてわかるようになるよう、ポイントを絞った解説文を掲載する
  - ・ 「地図面」を補足し、避難行動の検討に繋がる内容を掲載
- 解説文は、文章だけで理解できるよう、端的な文章に努める
  - ・ 中学3年生(義務教育期間最終)に分かる・伝わることを目標
- 自治体のハザードマップや内閣府、気象庁等の公的機関に記載されている内容を参考に解説文を検討
  - ・ 「水害を知る」「リスクを知る」「対応を知る」の構成に対して、特に重要な情報を取捨選択して掲載

# 必要最低限伝えるべき情報・学習編(事務局案)

- 文章案は、「水害を知る」「リスクを知る」「対応を知る」の構成に対して、特に重要な情報については優先度を高めて掲載することを念頭に、できる限り端的に説明する文章を構築。

構成		解説文案	
水害を知る	1. 水害を意識する	国土の特徴	日本は水害・土砂災害が多発する特徴を持った国です。
		水害の可能性	いつどこで水害が発生するかわからず、あなたも他人事ではありません。
	2. 現状を認識する	これまでの対策	これまでの河川整備で水害に対する安全度は高まっています。
		気候の変化	しかし、気候変動のため雨の降り方が激しくなっており
		災害の頻発化	全国で水害が頻発化しています。
3. 自分の居場所の危険度を知る	これからの対策	大規模な豪雨に対しては避難対策が命を守るカギです	
リスクを知る	3. 自分の居場所の危険度を知る	水害のリスク	水害の一般的な発生パターンとその怖さを知りましょう。
		居場所のリスク	あなたの居場所は、次のどれですか。 A.家屋倒壊等氾濫想定区域 家が流されるかもしれません。 B.浸水想定区域 家の中まで水につかるかもしれません C.浸水が想定されていない区域 あなたの居場所は木造ですか？何階建てですか？
	4. 避難を考える	避難の方法	あなたの居場所によって避難方法は異なります。 A.家屋倒壊等氾濫想定区域内の場合は、立退き避難が必要です。 B.浸水想定区域内の場合は、立退き避難が必要です。ただし、想定される浸水の深さより高い場所で、水が引くまで我慢でき、水、食糧などの備えが十分であれば屋内で安全確保することも可能です。
		避難先の選定	立退き避難には、以下の避難先が考えられます。 1.行政が指定した避難場所 2.安全な親戚・知人宅／安全なホテル・旅館等の自主的な避難先

# 必要最低限伝えるべき情報・学習編(事務局案)

構成		解説文案	
対応を知る	5. 行動に移す	<p>避難のきっかけとなる3つの情報を意識してください。</p> <p>1.気象情報 2.河川情報 3.市町村から発令される避難情報</p> <p>1.気象情報には、以下の3つの情報があります。</p> <p>1.注意報は、災害が発生するおそれのあるときに発表されます。</p> <p>2.警報は、重大な災害が発生するおそれのあるときに発表されます。</p> <p>3.特別警報は、重大な災害が発生するおそれが著しく高まっているときに発表されます。</p> <p>2.河川情報には、以下の4つの情報があります。</p> <p>1.氾濫注意情報は、氾濫の発生に注意を求めるときに発表されます。</p> <p>2.氾濫警戒情報は、避難準備などの氾濫発生に対する警戒を求めるときに発表されます。</p> <p>3.氾濫危険情報は、いつ氾濫してもおかしくない状態のときに発表されます。</p> <p>4.氾濫発生情報は、氾濫水への警戒を求めるときに発表されます。</p> <p>3.市町村から発令される避難情報には、以下の3つの警戒レベルがあります。</p> <p>警戒レベル3の高齢者等避難は、高齢者や障がい者等が危険な場所から避難する目安です。</p> <p>警戒レベル4の避難指示は、対象地域の全員が危険な場所から避難する目安です。</p> <p>警戒レベル5の緊急安全確保は、命の危険があり、直ちに安全確保する目安です。</p>	
	6. 個人に応じた避難・避難生活	個人のリスクに応じた避難	<p>個人の状況に応じて、適切な避難を考え、3つの準備をしましょう。</p> <p>1. 避難の方法・避難先を決める 2. どうやって移動するかを考える</p> <p>3. 支援者を探す</p>
		個人のリスクに応じた避難生活	<p>個人の状況に応じて、避難後の避難生活を考え、2つについて考えましょう</p> <p>1. 避難先で生活できるのか 2. 自分にとって必要なものは何か</p> <p>いっどこへだれと避難するか整理し、訓練しましょう</p> <p>1.自分や家族で、マイ・タイムラインをつくる</p> <p>2.市町村や地域と訓練を行い、避難経路の検証を行いましょう</p>



# 必要最低限伝えるべき情報・学習編(事務局案)

## 【水害を知る】

日本は水害・土砂災害が多発する特徴を持った国です。いつどこで水害が発生するかわからず、あなたも他人事ではありません。これまでの河川整備で水害に対する安全度は高まっています。しかし、気候変動のため雨の降り方が激しくなっており水害が全国で頻発化しています。大規模な豪雨に対しては避難対策が命を守るカギです。

## 【リスクを知る】

水害の一般的な発生パターンとその怖さを知りましょう。あなたの居場所は、次のどれですか。

A.家屋倒壊等氾濫想定区域 家が流されるかもしれません。 B.浸水想定区域 家の中まで水につかるかもしれません

C.浸水が想定されていない区域

あなたの居場所は木造ですか？何階建てですか？

あなたの居場所によって避難方法は異なります。

A.家屋倒壊等氾濫想定区域内の場合は、立退き避難が必要です。

B.浸水想定区域内の場合は、立退き避難が必要です。ただし、想定される浸水の深さより高い場所で、水が引くまで我慢でき、水食糧などの備えが十分であれば屋内で安全確保することも可能です。

立退き避難には、以下の避難先が考えられます。

1.行政が指定した避難場所 2.安全な親戚・知人宅／安全なホテル・旅館等の自主的な避難先

## 【対応を知る】

避難のきっかけとなる3つの情報を意識してください。1.気象情報 2.河川情報 3.市町村から発令される避難情報

1.気象情報には、以下の3つの情報があります。

1.注意報は、災害が発生するおそれのあるときに発表されます。 2.警報は、避難準備などの氾濫発生に対する警戒を求めるときに発表されます。

3.特別警報は、重大な災害が発生するおそれが著しく高まっているときに発表されます。

2.河川情報には、以下の4つの情報があります。

1.氾濫注意情報は、氾濫の発生に注意を求めるときに発表されます。

2.氾濫警戒情報は、避難準備などの氾濫発生に対する警戒を求めるときに発表されます。

3.氾濫危険情報は、いつ氾濫してもおかしくない状態のときに発表されます。 4.氾濫発生情報は、氾濫水への警戒を求めるときに発表されます。

3.市町村から発令される避難情報には、以下の3つの警戒レベルがあります。

警戒レベル3の高齢者等避難は、高齢者や障がい者等が危険な場所から避難する目安です。

警戒レベル4の避難指示は、対象地域の全員が危険な場所から避難する目安です。

警戒レベル5の緊急安全確保は、命の危険があり、直ちに安全確保する目安です。

個人の状況に応じて、適切な避難を考え、3つの準備をしましょう。

1.避難の方法・避難先を決める 2.どうやって移動するかを考える 3.支援者を探す

個人の状況に応じて、避難後の避難生活を考え、2つについて考えましょう

1.避難先で生活できるのか 2.自分にとって必要なものは何か。

いつどこへだれと避難するか整理し、訓練しましょう

1.自分や家族で、マイ・タイムラインをつくる

2.市町村や地域と訓練を行い、避難経路の検証を行いましょう

ここまで

# 情報・学習編の伝え方

- 「必要最低限伝えるべき内容」は、音声出力が可能なウェブサイトをシングルページを基本に構築する。
- 更に詳しい情報内容を伝える場合は、ハイパーリンクにより情報内容の追加等を随時実施し、情報内容の充実を図る。
- 次回ワーキング会議までにテストサイトを構築し、当事者にご意見を頂くことを想定。

## ハザードマップ情報・学習編サイト

このサイトに記載されていること

1. [水害を知る](#)
2. [リスクを知る](#)
3. [対応を知る](#)

### 1 水害を知る

日本は水害・土砂災害が多発する特徴を持った国です。いつどこで水害が発生するかわからず、あなたも他人事ではありません。これまでの河川整備で水害に対する安全度は高まっています。

.....

### 2 リスクを知る

水害の一般的な発生パターンとその怖さを知りましょう。

あなたの居場所は、次のどれですか。

あなたの居場所によって避難方法は異なります。

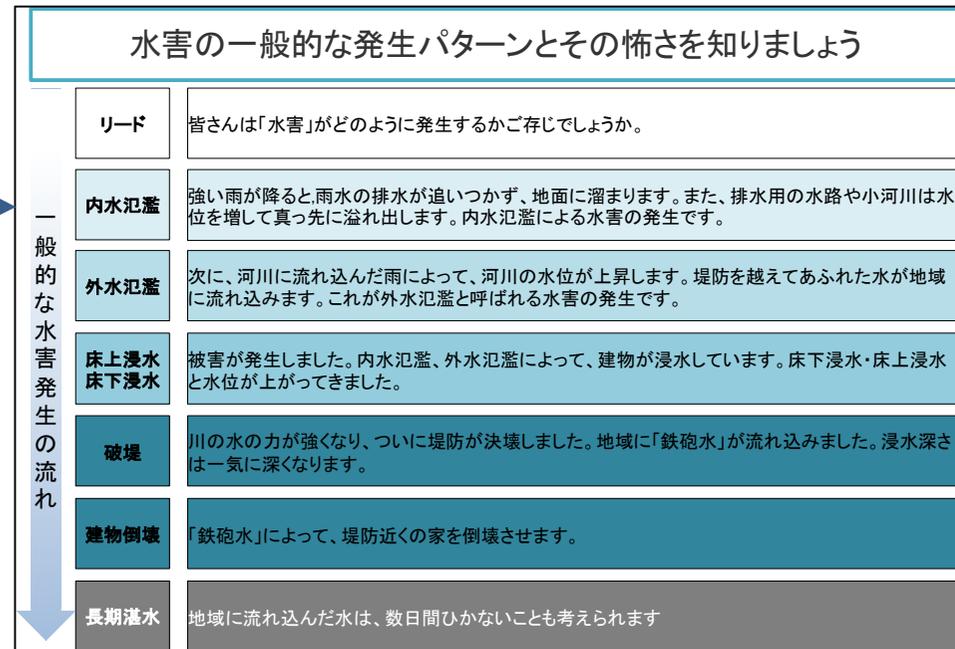
A. 家屋倒壊等氾濫想定区域内の場合は、立退き避難が必要です。

B. 浸水想定区域内の場合は、立退き避難が必要です。ただし、想定される浸水の深さより高い場所で、水が引くまで我慢でき、水、食糧などの備えが十分であれば屋内で安全確保することも可能です。

.....

[水害の一般的な発生パターンを詳しく知る場合はこちら](#)

[地域特性に応じたリスクについて詳しく知る場合はこちら](#)



地域特性	記載例
都市域	堤防や下水道が整備された都市部では、水路や下水道からあふれた水による浸水や、堤防の決壊に注意が必要です。
上流地域	河川の上流では相対的に河川整備の水準が低いことが多いので、河川からの氾濫に注意が必要です。
河川が合流する地域	川と川が合流する箇所などでは氾濫に注意が必要です。
河川勾配が急な地域	急流河川では川を流れる水の流れが速く、堤防が削られやすいので、堤防決壊に注意が必要です。
山間地域	山間部の溪流などでは、土砂災害に注意が必要です。
海に近い地域	波が高くなる海の近くでは高潮による浸水に注意が必要です。
標高が低い地域	ゼロメートル地帯など周囲の海や河川より標高の低い地区では、水路や下水道からあふれた水での浸水が起きやすいほか、一度浸水が発生すると解消までに長期間かかるという特徴があります。
ダム下流の地域	ダムの下流では、上流に降った雨による流量がダムで調節されてから流れてきますが、ダムの容量が無限にあるわけではないので大雨が続くとダムの調節効果が小さくなる場合があります。そうした大雨の場合、異常洪水時防災操作(ダムによる調節が小さくなる緊急放流)を行うことが事前に情報提供されますので速やかに避難してください。